

附 録

瀝青及セメント混凝土舗装仕方書

(本仕方書は内務省土木局に於て暫定的に規定せるものである。)

目 次

簡易瀝青舗装道	2
瀝青乳劑塗装道.....	4
瀝青塗装道.....	5
瀝青乳劑マカダム道.....	6
瀝青マカダム道.....	8
アスファルト舗装道	11
シート・アスファルト舗装道.....	11
アスファルト・コンクリート舗装道.....	15
基礎用アスファルト・コンクリート.....	18
セメント・コンクリート舗装道	22
膠石舗装道	26

簡易瀝青鋪裝道

第一章 總 則

第一條 本示方書ニ述フル所ノ簡易鋪裝道ハ次ノ四種トス

(一) 瀝青乳劑塗裝道

在來ノ定着セル堅固ナル路面上ニ締結材トシテ瀝青乳劑ヲ以テ施工スル路面處理道ナリ

(二) 瀝青塗裝道

在來ノ定着セル堅固ナル路面上ニ締結材トシテ瀝青材(道路油又ハタール)ヲ以テ施工スル路面處理道ナリ

(三) 瀝青乳劑マカダム道(滲透法)

充分堅固ナル路盤ヲ形成シタル後碎石及瀝青乳劑ヲ以テ施工スルマカダム道ナリ

(四) 瀝青マカダム道(滲透法)

充分堅固ナル路盤ヲ形成シタル後碎石及瀝青材(軟質石油アスファルト、道路油又ハタール)ヲ以テ施工スルマカダム道ナリ

第二條 本鋪裝ノ横斷勾配ハ次ノ標準ニヨルヘシ

瀝青乳劑塗裝道及瀝青塗裝道ニ於テハ3—5%(1/33—1/20)

瀝青乳劑マカダム道及瀝青マカダム道ニ於テハ3—4%トス(1/33—1/25)

第三條 本鋪裝工ハ氣温攝氏5度ヲ降ルトキハ施工セサルヲ可トス

第二章 材 料

第一條 粗骨材

(一) 粗骨材ハ質堅韌緻密ナル岩石ヲ破碎シタルモノニシテ次記規格ニ適合セルモノタルヘシ

(1) 扁平又ハ細長ナラス稜角ニ富ミ割肌清淨ナルモノタルヘシ

(2) 比 量 2.5以上

(3) 磨損百分率 4%以下

(4) 粒度ハ次記範圍内ニアルモノタルヘシ

(イ) 15耗級

15耗孔篩通過 90—100%

10耗孔篩通過 25—75%

5耗孔篩通過 0—10%

(ロ) 20耗級

20耗孔篩通過 90—100%

15耗孔篩通過 30—70%

10耗孔篩通過 0—10%

(ハ) 50耗級

50耗孔篩通過 90—100%

40耗孔篩通過 30—70%

30耗孔篩通過 0—10%

(ニ) 80耗級

80耗孔篩通過 90—100%

50耗孔篩通過 30—70%

40耗孔篩通過 0—10%

上記各級ノ粗骨材ハ其上位ニアル篩ヲ100%通過スルモノトス例セバ15耗級粗骨材カ20耗孔篩ヲ通過スル量ハ100%ト

ス篩ハ附記ノ粗骨材篩ヲ使用スル者トス
(二) 特殊ノ場合ニ限り粗骨材用トシテ鐵滓又ハ玉石ヲ破碎シタルモノ又ハ砂利ヲ以テ之ニ更フル事ヲ得

第二條 細骨材

(一) 質堅硬ニシテ乾燥セル砂又ハ碎石屑ニシテ土芥其他不純物ヲ混セサルモノタルヘシ

(二) 粒度ハ次記範圍内ニアルモノタルヘシ(重量%)

10番篩通過 80—100%

20番篩通過 0—10%

第三條 瀝青乳劑

瀝青乳劑ハ瀝青質材料ヲ適當ナル方法ニヨリ微粒子ノ形トシテ分散セシメタルモノニシテ次ノ規格ニ適合セルモノタルヘシ

(一) 質均等ニシテ不純物ヲ含有スヘカラス

(二) 比粘度(エングレー氏法)

攝氏25度ニ於テ 2—8

攝氏4度ニ於テ 攝氏25度ニ於ケル

實測比粘度ノ2.5倍以下

(三) 二硫化炭素可溶物質 48%以上

(四) 瀝青質殘留物性質

(1) 針 度(攝氏25度、100瓦、5秒間) 70—200

(2) 延 性(攝氏25度、毎分5種) 80種以上

(3) 蒸發減(攝氏163度、50瓦、5時間) 3%以下

(五) 貯藏安定度 5%以下

(六) 低温安定度 優良

(七) 混水安定度 優良

(八) 分解速度 5分—2時間

注意、瀝青乳劑ニ對スル試驗ハ内務省土木試驗所標準方法ニ據ルモノトス

第四條 アスファルト

アスファルトハアスファルト系原油ノ直溜製品ニシテ次ノ規格ニ適合セルモノタルヘシ

(一) 質均等ニシテ水分ヲ含有スヘカラス

(二) 比 重(攝氏25度/25度) 1.00—1.05

(三) 針 度(攝氏25度、100瓦、5秒間) 85—100 100—120 120—150 150—200

氣温ニ應シ高温ノ場合ハ針度小ナルモノヲ又低温ノ場合ハ針度大ナルモノヲ使用スヘキモ施工時期及一年ヲ通シタル氣温等ヲ考慮シテ之ヲ選フヘシ

(四) 引火點(開放式) 攝氏200度以上

(五) 蒸發減(攝氏163度、50瓦、5時間) 2.0%以下

(六) 蒸發殘留物針度(攝氏25度、100瓦、5秒間) 原針度ノ65%以上

(七) 瀝青全量(CS₂) 99.5%以上

第五條 道路油(加熱用)

加熱用道路油ハアスファルト系原油ノ直溜製品ニシテ次ノ規格ニ適合セルモノタルヘシ

(一) 質均等ニシテ水分ヲ含有スヘカラス

(二) 比 重(攝氏25度/25度) 0.96以上

(三) 比粘度(エングレー氏法) 攝氏100度ニ於テ 10—60

(四) 引火點(開放式) 攝氏130度以上

(五) 蒸發減(攝氏163度、50瓦、5時間) 15%以下

(六) 蒸發殘留物針度(攝氏25度、100瓦、

- 5秒間) 200以下
- 第六條 道路油(常溫用)
常溫用道路油ハアスファルト系原油ヨリ製シタルモノニシテ次ノ規格ニ適合セルモノタルヘシ
- (一) 質均等ニシテ水分ヲ含有スヘカラス
 - (二) 比重(攝氏25度/25度) 0.94—0.99
 - (三) 比粘度(エングレー氏法)
攝氏25度ニ於テ 40—120
 - (四) 引火點(開放式) 攝氏60度以上
 - (五) 蒸發減(攝氏168度、50瓦、5時間)
30%以下
 - (六) 蒸發殘留物針度(攝氏25度、100瓦、5秒間) 250以下
 - (七) 瀝青全量(CS₂) 99.5%以上
- 第七條 道路用タール(加熱用)
加熱用タールハ骸炭爐タール或ハ石炭瓦斯爐タールヨリ製シ20%(重量)以上ノ他系瀝青質材料ヲ含有セサルモノニシテ左ノ規格ニ適合セルモノタルヘシ
- (一) 質均等ニシテ攝氏110度以下ニ於テ泡起スヘカラス
 - (二) 比重(攝氏15度/15度) 1.15—1.24
 - (三) 稠度(ハツチンソン氏法)
攝氏25度ニ於テ 40—130
 - (四) 引火點(開放式) 攝氏110度以上
 - (五) 水分 0.5%以下
 - (六) 蒸溜試験 攝氏零度—170度 1%以下
攝氏170度—270度 8—16%
攝氏270度—300度 3—12%
攝氏300度以上殘留物76%以上
殘留物軟化點 攝氏60度以下
 - (七) タール酸(容積%) 4%以下

- (八) ナフトリン 4%以下
 - (九) 瀝青全量(CS₂) 77%以上
 - (一〇)遊離炭素 6%—20%
- 第八條 道路用タール(常溫用)
常溫用タールハ骸炭爐タール或ハ石炭瓦斯爐タールヨリ製シ20%(重量)以上ノ他系瀝青質材料ヲ含有セサルモノニシテ次ノ規格ニ適合セルモノタルヘシ
- (一) 質均等ナルヘシ
 - (二) 比重(攝氏15度/15度) 1.10—1.20
 - (三) 比粘度(エングレー氏法)
攝氏50度ニ於テ 5—18
 - (四) 引火點(開放式) 攝氏60度以上
 - (五) 水分 1.5%以下
 - (六) 蒸溜試験 攝氏0度—170度 7%以下
攝氏170度—270度 27%以下
攝氏270度—300度 15%以下
攝氏300度以上殘留物 60%以上
殘留物軟化點 攝氏60度以下
 - (七) タール酸(容積%) 5%以下
 - (八) ナフトリン 5%以下
 - (九) 瀝青全量(CS₂) 80%以上
 - (一〇)遊離炭素 18%以下

第九條 試験方法

材料ノ試験方法ハ凡テ内務省土木試験所制定ノ材料標準試験方法ニヨルヘシ

第三章 瀝青乳劑塗裝道

第一條 概説

本塗裝道ハ主骨材トシテ15耗級ノモノヲ使用シ之ニ締結材トシテ乳劑ヲ100平米當リ約400立テ二回ニ撒布シ輕キローラーヲ以テ約1糎厚ニ仕上クルモノトス

第二條 路面工

- (一) 塗裝ヲ施サントスル路面ニ著シキ窪ミアル場合ハ碎石、砂利又ハ良質ノ砂利混リ土ヲ補給シ適度ノ撒水ヲナシツツ充分輾壓(ローラーニヨリ輾壓ヲ行ヒ得サル部分ハ木鎗ノ類ヲ以テ搗キ固ムベシ)ヲ行ヒ規定路面形ニ整正スヘシ此ノ際必要ニ應シ瀝青乳劑ヲ締結材トシテ使用スルコトアルヘシ
- (二) 路面ノ整正ヲ終リタル後ハ適當期間交通ニ供シ路面ニ凹凸ヲ生シタル箇所ハ再ヒ整正スヘシ
尙路面ヲ保護シ塗裝工ヲ容易ナラシメンカ爲メ交通ニ供スル以前ニ豫メ乳劑撒布ヲ行フ事アリ此場合乳劑撒布量ハ100平米當リ約150立トシ撒布後ハ遲滞ナク細骨材ヲ100平米當リ約0.5立米ノ割合ニ路面一様ニ撒布スヘシ

第三條 塗裝工

- (一) 路面ハ適度ノ撒水ヲナシツツ手箒又ハブラシユノ類ヲ以テ摩擦清掃シ堆積セル浮土塵埃ヲ入念ニ除去シタル後乳劑ヲ撒布スヘシ
- (二) 第一回ノ乳劑撒布量ハ100平米當リ約250立トス
- (三) 乳劑撒布後ハ遲滞ナク15耗級粗骨材ヲ100平米當リ約1.5立米ノ割合ニ路面一様ニ撒布スヘシ
- (四) 撒布ニ不陸アル場合ハ箒ノ類ヲ以テ輕ク掃キ均スヘシ
- (五) 乳劑カ滲透スルヲ俟テ輕キローラーヲ以テ充分輾壓スヘシ
尙表面ニ過剩ノ碎石ノ遊離スル場合ハ之

ヲ掃キ去ルヘシ

- (六) 第二回ノ乳劑撒布量ハ100平米當リ150立トス
- (七) 撒布終レハ直チニ細骨材ヲ100平米當リ約0.5立米ノ割合ニ路面一様ニ撒布シ乳劑ノ滲透スルヲ俟テ前記ローラーヲ以テ輾壓仕上クヘシ
- (八) 乳劑ノ開罐ハ撒布使用ノ直前ニ於テナスヘシ又開罐シテ使用盡シ得サルモノハ完全ニ罐ヲ密封保存スヘシ
- (九) 乳劑ハ撒布器若クハ適當ナル手撒器ニ依リ道路中心線ニ平行ニ撒布シ若シ乳劑ノ撒布漏レ又ハ密着不十分ナル箇所等ヲ生シタル時ハブラシユノ類ヲ以テ丁寧ニ迅速ニ塗抹スヘシ
- (一〇) 路面仕上後相當時間(約三時間)ノ經過ヲ俟テテ交通ヲ開始スヘシ
- (一一) 交通開始後適當期間塗裝面ノ維持修繕ヲ怠タルヘカラス

第四章 瀝青塗裝道

第一條 概説

本塗裝道ハ主骨材トシテ15耗級ノモノヲ使用シ之ニ締結材トシテ瀝青材(道路油又ハタール)ヲ100平米當リ約400立テ二回ニ撒布シ輕キローラーヲ以テ約1糎厚ニ仕上クルモノトス

第二條 路面工

- (一) 塗裝ヲ施サントスル路面ニ著シキ窪ミアル場合ハ碎石、砂利又ハ良質ノ砂利混リ土ヲ補給シ適度ノ撒水ヲナシツツ充分輾壓(ローラーニヨリ輾壓ヲ行ヒ得サル部分ハ木鎗ノ類ヲ以テ搗キ固ムヘシ)

チ行ヒ規定路面形ニ整正スヘシ此ノ際必要ニ應シ瀝青材ヲ締結材トシテ使用スルコトアルヘシ

(二) 路面ノ整正ヲ終リタル後ハ適當期間交通ニ供シ路面ニ凸凹ヲ生シタル個所ハ再ヒ整正スヘシ

尙路面ヲ保護シ塗装工ヲ容易ナラシメンカ爲メ交通ニ供スル以前ニ瀝青材撒布チ行フコトアリ此場合瀝青材撒布量ハ100平米當リ約150立トシ撒布後ハ遲滞ナク細骨材ヲ100平米當リ約0.5立米ノ割合ニ路面ニ撒布スヘシ

第三條 塗装工

(一) 路面ノ適度ノ撒水チナシツツ手筈又ハブラシュノ類ヲ以テ摩擦清掃シ堆積セル浮土塵埃ヲ入念ニ除去シタル後其乾燥スルヲ俟テ瀝青材ヲ撒布スヘシ

(二) 第一回ノ瀝青材撒布量ハ100平米當リ約250立トス

(三) 瀝青材撒布後ハ遲滞ナク15耗級粗骨材ヲ100平米當リ約1.5立米ノ割合ニ路面ニ撒布スヘシ

(四) 撒布ニ不陸アル場合ハ箒ノ類ヲ以テ輕ク掃キ均スヘシ

(五) 粗骨材撒布後輕キローラーヲ以テ充分輾壓スヘシ尙表面ニ過剰ノ碎石ノ遊離スル場合ハ之ヲ掃キ去ルヘシ

(六) 第二回ノ瀝青材撒布量ハ100平米當リ約150立トス

(七) 撒布終レハ直チニ細骨材ヲ100平米當リ0.5立米ノ割合ニ路面ニ撒布シ瀝青材ノ滲透スルヲ俟テ前記ローラー

ヲ以テ輾壓仕上クヘシ

(八) 加熱用瀝青材ハ氣温ニ應ジテノ範圍内ニ於テ適當ナル温度ニ加熱シタル後撒布スヘシ

(1) 道路油 攝氏 90—130度

(2) タール 攝氏 80—110度

(九) 常温用瀝青材ヲ使用スルニ當リ氣温低クシテ施工ニ困難ヲ感スル時ハ加熱使用スヘシ此場合加熱温度ハ何レモ攝氏50度以下タルヘシ

(一〇) 瀝青材ハ撒布器若クハ手撒器ニヨリ道路中心線ニ平行ニ撒布シ若シ瀝青材ノ撒布漏レ又ハ密着不充分ナル個所等ヲ生シタル時ハブラシュノ類ヲ以テ叮嚀迅速ニ塗抹スヘシ

(一一) 交通ハ施工後次記ニ示ス期間ノ經過ヲ俟テ開始スヘシ但シ常温用瀝青材ヲ使用セル場合ハ交通開始後ト雖モ相當期間路面仕上ノ輾壓ヲ續行スヘシ

(1) 道路油(加熱用)ヲ使用シタル場合 24時間以上

(2) 道路油(常温用)ヲ使用シタル場合 2日以上

(3) タール(加熱用)ヲ使用シタル場合 24時間以上

(4) タール(常温用)ヲ使用シタル場合 2日以上

(一二) 交通開始後適當期間塗装面ノ維持修繕ヲ怠ルヘカラス

第五章 瀝青乳劑マカダム道

第一條 概説

本マカダム道ハ主トシテ在來ノ路面其他相

當堅固ナル基礎ヲ利用スル場合ニ施行スルモノニシテ其ノ設計厚ハ約5糎及ヒ8糎ノ二種類トス之ニ用フル主骨材ハ50耗級又ハ80耗級トシ之ニ目潰材トシテ20耗級ヲ使用シ締結材ニハ乳劑ヲ100平米當リ約800立(5糎厚ノ場合)又ハ約1,000立(8糎厚ノ場合)ヲ三回ニ撒布シ重キローラーニテ充分輾壓仕上ケルモノトス

第二條 路盤工

(一) 在來ノ定着セル堅固ナル路面ヲ利用スル場合ト雖モ入念ニ設計路面形ニ整正スヘシ

(二) 地盤軟弱ナルカ又ハ相當量ノ切土盛土チナシタル個所ハ割栗石又ハ玉石等ニ砂利、碎石又ハ良質ノ砂利混リ土等ヲ補給シツツ充分堅固ナル路盤ヲ形成シ猶地方ノ狀況ニ應ジ適當期間交通ニ供スヘシ

第三條 鋪装工

(一) 鋪装仕上厚ニヨル使用材料ノ種類及數量(100平米當リ)ハ次表ニヨルヘシ但地力の狀況其ノ他ノ條件ニヨリ左記規定ニ據ラサルコトアルヘシ

材 料	單位	大約數量		摘 要
		5糎厚	8糎厚	
80 耗 級	立米		8.0	主骨材用
50 耗 級	立米	5.0		主骨材用
20 耗 級	立米	1.5	3.0	目潰材用
第1回乳劑	立	400.0	500.0	
20 耗 級	立米	1.5	2.0	上層骨材用
第2回乳劑	立	200.0	300.0	
15 耗 級	立米	1.0	1.0	目潰材用
第3回乳劑	立	200.0	200.0	
細 骨 材	立米	0.5	0.5	表面撒布用

(二) 主骨材用粗骨材ヲ路面ニ撒布スルニ厚薄無

キ様敷均シローラー(マカダム8糎以上)ヲ以テ輾壓空締メチナシ粗骨材ノ脱出スルコト無キ程度ニ噴ミ合ハシメ之ニ目潰用トシテ20耗級ヲ敷均シ充分輾壓シタル後碎石面ニ漏レ無ク均等ニ第一回ノ乳劑撒布チ行フヘシ

(三) 乳劑カ滲透スルヲ俟テテ20耗級ヲ均等ニ敷均シ充分輾壓シタル後第二回ノ乳劑撒布チ行フヘシ

(四) 乳劑カ滲透スルヲ俟テ目潰用トシテ15耗級ヲ均等ニ敷均シ充分輾壓シタル後第三回ノ乳劑撒布チ行フヘシ

(五) 乳劑撒布チ行ヒタル後直チニ細骨材ヲ一様ニ撒布シ乳劑ノ滲透スルヲ俟テ充分輾壓仕上クヘシ

(六) 乳劑ノ開離ハ撒布使用ノ直前ニ於テナスヘシ又開離シテ使用盡シ得サルモノハ完全ニ罐ヲ密封保存スヘシ

(七) 乳劑ハ撒布器若クハ適當ナル手撒器ニ依リ道路中心線ニ平行ニ撒布シ若シ乳劑ノ撒布漏レ又ハ密着不充分ナル個所等ヲ生シタル時ハブラシュノ類ヲ以テ叮嚀迅速ニ塗抹スヘシ

(八) 輾壓ハ道路中心線ニ平行ニ全面ニ一様ニ之チ行フモノトシ路側ヨリ中央ニ進メ各列輾壓跡ヲ適當ニ重複セシムルモノトス

(九) 路面仕上後相當時間(通常約三時間)ノ經過ヲ俟テ交通ヲ開始スヘシ

(一〇) 交通開始後適當期間鋪装面ノ維持修繕ヲ怠ルヘカラス

第六章 瀝青マカダム道

第一條 概説

本マカダム道ハ主トシテ在來ノ路面其他相當堅固ナル基礎ヲ利用スル場合ニ施行スルモノニシテ其ノ設計厚ハ5種及ヒ8種ノ二種類トス之ニ用フル主骨材ハ50糎級及80糎級トシ之ニ目潰材トシテ20糎級ヲ使用シ締結材ニハ瀝青材ヲ100平米當リ約800立(5糎厚ノ場合)又ハ約1,000立(8糎厚ノ場合)ヲ3回ニ撒布シ重キローラーニテ充分輾壓仕上ケルモノトス

第二條 路盤工

(一) 在來ノ定着セル堅固ナル路面ヲ利用スル場合ト雖モ入念ニ設計路面形ニ整正スヘシ

(二) 地盤軟弱ナルカ又ハ相當量ノ切土盛土ヲナシタル個所ハ割栗石又ハ玉石等ニ砂利碎石又ハ良質ノ砂利混リ土等ヲ補給シツツ充分堅固ナル路盤ヲ形成シ猶地方ノ狀況ニ應シ適當期間交通ニ供スヘシ

第三條 鋪裝工

(一) 鋪裝仕上厚ニヨル使用材料ノ種類及數量(100平米當リ)ハ次表ニヨルヘシ但シ地方ノ狀況其他ノ條件ニヨリ次記規定ニヨラサルコトフルヘシ

材 料	單位	大約數量		摘 要
		1糎厚	8糎厚	
80 糎 級	立米		8.0	主骨材用
50 糎 級	立米	5.0		主骨材用
*20 糎 級	立米	1.5	3.0	目潰材用
第1回瀝青材	立	400.0	500.0	
20 糎 級	立米	1.5	2.0	上層骨材用

第2回瀝青材	立	200.0	300.0	
15 糎 級	立米	1.0	1.0	目潰材用
第3回瀝青材	立	200.0	200.0	
細 骨 材	立米	0.5	0.5	表面撒布用

(二) 主骨材用粗骨材ヲ路面一様ニ厚薄無キ様敷均シローラー(マカダム8噸以上)ヲ以テ輾壓空締メテナシ粗骨材ノ脱出スルコト無キ程度ニ嚙ミ合ハシメ之ニ目潰用トシテ20糎級ヲ敷均シ充分輾壓シタル後碎石面ニ漏レ無ク均等ニ第1回ノ瀝青材撒布ヲ行フヘシ

(三) 瀝青材ノ汎布終ラハ2糎級ヲ均等ニ敷均シ充分輾壓シタル後第2回ノ瀝青材ヲ撒布スヘシ

(四) 瀝青材ノ撒布後目潰用トシテ15糎級ヲ均等ニ敷均シ充分輾壓シタル後第3回ノ瀝青材撒布ヲ行フヘシ

(五) 瀝青材撒布ヲ行ヒタル後直チニ細骨材ヲ一様ニ撒布シ充分輾壓仕上ケルヘシ

(六) 加熱用瀝青材ハ氣温ニ應シ次ノ範圍内ニ於テ適當ナル温度ニ加熱シタル後撒布スヘシ

(1) アスファルト 攝氏 130—170度
 (2) 道 路 油 攝氏 90—130度
 (3) タ ー ル 攝氏 80—120度

(七) 常温用瀝青材ヲ使用スルニ當リ氣温低クシテ施工ニ困難ヲ感スル時ハ加熱使用スヘシ此場合加熱温度ハ何レモ攝氏50度以下タルヘシ

(八) 瀝青材トシテアスファルトヲ使用セル場合ハ(一)項ニ記載セル表中 *印ヲ附セル粗骨材(目潰用)ノ撒布ヲ省略シ猶瀝青材撒布回数ヲ二回ニ減スル事アルヘシ

(九) 瀝青材ハ撒布器若クハ手撒器ニヨリ道路中心線ニ平行ニ撒布シ若シ瀝青材ノ撒布漏レ又ハ密着不十分ナル個所等ヲ生シタル時ハブラシュノ類ヲ以テ叮嚀迅速ニ塗抹スヘシ

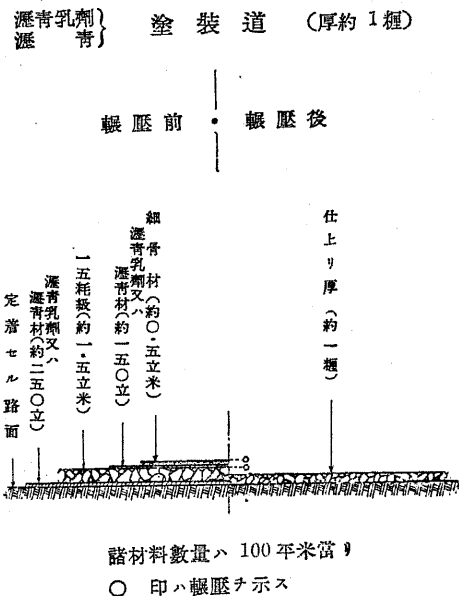
(一〇) 交通ハ路面仕上後次記ニ示ス期間ノ經過ヲ俟テテ開始スヘシ但シ常温用瀝青材ヲ使用セル場合ハ交通開始後ト雖モ相當期間路面仕上ノ輾壓ヲ續行スヘシ

- (1) アスファルトヲ使用シタル場合
12時間以上
- (2) 道路油(加熱用)ヲ使用シタル場合
24時間以上
- (3) 道路油(常温用)ヲ使用シタル場合
2日以上
- (4) タール(加熱用)ヲ使用シタル場合
24時間以上

(5) タール(常温用)ヲ使用シタル場合
2日以上
 (一一) 交通開始後適當期間鋪裝面ノ維持修繕ヲ怠ルヘカラス

附記 粗骨材節
 粗骨材節ハ次記 11種類トシ何レモ金屬板ニ所要ノ直徑ヲ有スル圓孔ヲ穿チタルモノヲ使用スルモノトス

100糎孔節	80糎孔節
60糎孔節	50糎孔節
40糎孔節	30糎孔節
25糎孔節	20糎孔節
15糎孔節	10糎孔節
5糎孔節	



篩	重量百分率
10番篩通過	98—100
10番篩通過40番篩止	14—50
40番篩通過80番篩止	30—60
80番篩通過200番篩止	16—40
200番篩通過	0—5
計	100

但シ一種ニシテ前記ノ粒度ヲ得ラレサル場合ハ二種以上ノ砂ヲ混合使用スルモノトス

第四條 粗骨材(中間層用)

- (一) 質均等堅韌緻密ナル碎石タルヘシ
- (二) 稜角ニ富ミ扁平又ハ細長ナラズ土芥其他不純物ヲ混セサルモノタルヘシ
- (三) 吸水率 2%以下
- (四) 磨損 100分率 5%以下
- (五) 韌性 8以上
- (六) 粒度ハ中間層ノ厚ニヨリ次表ノ標準ニ依ルヘシ

(重量 100分率)

篩	中間層厚	
	3 糎	4 糎
30 糎孔篩通過	—	95—100
25 糎孔篩通過	95—100	—
20 糎孔篩通過	—	25—75
15 糎孔篩通過	25—75	—
5 糎孔篩通過	0—10	0—10
計	100	100

第三章 混合物配合

第一條 中間層

中間層ハ粗骨材細骨材及ヒアスファルトヲ混合シタルモノニシテ其配合ハ次表ノ標準ニ依ルヘシ

材 料	篩	重量100分率
骨 材	10番篩止	0—80
	10番篩通過	15—35
アスファルト		5—7
計		100

第二條 表層

表層ハ細骨材填充材及ヒアスファルトヲ混合シタルモノニシテ其配合ハ次表ノ標準ニ依ルヘシ

材 料	篩	重量100分率
細骨材及 填充材	10番篩止	0—5
	10番篩通過40番篩止	10—40
	40番篩通過80番篩止	22—45
	80番篩通過200番篩止	12—30
アスファルト	200番篩通過	10—20
		9—12.5
計		100

第四章 混合作用

第一條 混合

- (一) 骨材ハ廻轉乾燥機ニヨリ乾燥シタル後廻轉篩ヲ通過セシメ貯藏筒ニ送シアスファルトハ熔融槽ニテ加熱熔融ス各材料ヲ秤量シタル後骨材填充材(表層ノ場合)及ヒアスファルトノ順序ニ混合機ニ投入シ充分攪拌混合スヘシ
- (二) 加熱溫度ハ次表ニヨルヘシ

材 料	中間層	表層
骨 材	攝氏 110—180	攝氏 130—190
アスファルト	攝氏 110—180	攝氏 130—180

- (三) 骨材及ヒ填充材(表層ノ場合)ノ投入

後充分之ヲ混合シタル後之ニ熔融セルアスファルトヲ注入シ中間層混合物ノ場合ニ於テハ30秒以上表層混合物ニ於テハ60秒以上混合スヘシ

第二條 運搬

混合物ハ豫メ清掃シタル適當ナル運搬車ニ依リ迅速ニ且ツ鋪設作業ノ進行ニ應シ過不足ナキ様間斷ナク現場ニ搬入スヘシ混合物ハ運搬中夭候ノ狀況ニ應シテ帆布類ヲ以テ被覆シ其溫度ハ現場到着ノ際中間層ノ場合攝氏100度表層ノ場合攝氏130度以下ニ低下セシムヘカラス

第五章 鋪設作業

第一條 路盤

- (一) 路盤ハ充分輾壓仕上テ行ヒタル後所定ノ形狀及ヒ計畫高ヲ保有セシムヘシ但シ輾壓不可能ナル個所アル場合ハ充分鎗搗チ行フヘシ
- (二) セメント・コンクリーリ基礎施工ノ場合路盤ノ表面乾燥ニ過クル時ハ鋪設前適度ノ撒水ニ依リ濕氣ヲ保タシムヘシ
- (三) アスファルト・コンクリーリ基礎施工ノ場合ハ鋪設前路盤ノ表面ヲ成ルヘク乾燥セシメオクヘシ

第二條 基礎

- (一) セメント・コンクリーリ基礎
 - (イ) 基礎厚ハ15糎ヲ標準トシ其材料配合等ハセメント・コンクリーリ舗装道示方書中二層式下層用ノモノニ準ス
 - (ロ) コンクリーリハ混合後成ル可ク速カニ使用シ一部硬化シタルモノハ練リ直スモ使用スヘカラス

(ハ) コンクリーリハ混合後シヨベルヲ以テ路盤上ニ敷均シタンパー、堅固ナルテムプレート、ハンドローラー其他適當ナル器具ヲ以テ計畫高ニ充分搗固ムヘシ但シ基礎面ノ仕上ハ時ニ平滑トナスヲ要セス

(ニ) 鋪設ニ當リ氣温攝氏零度ヲ降ル時使用材料若クハ路盤ノ凍結セル時ハ施工ヲナスヘカラス鋪設後コンクリーリ凍結ノ虞アル場合ハ急硬劑ヲ使用スル事ヲ得

(ホ) 基礎仕上後ハ夏季ニ於テハ少クトモ一週間冬季ニ於テハ係員ノ必要ト認ムル期間中適當ナル保護及養生ヲ加フヘシ

(二) アスファルト・コンクリーリ基礎

本基礎ニ關シテハ基礎用アスファルト・コンクリーリ示方書ヲ参照スヘシ

(三) 其他ノ基礎

特殊ノ場合トシテ瀝青マカダム在來鋪裝又ハ砂利道等ヲ基礎トシテ使用スルコトヲ得

第三條 鋪設

- (一) 混合物ノ鋪設ハ雨天或ハ氣温攝氏10度以下ノ場合等不適當ト認メラルル場合ニハ施行スヘカラス
- (二) 混合物ノ鋪設ハ豫メ乾燥セル基礎面ヲ清掃シタル後之ヲ行フヘシ
- (三) アスファルト舗裝ト接觸スヘキ縁石境界石其他路面露出物ノ側面ハ豫メ之ヲ清掃シタル後加熱熔融セルアスファルトヲ薄ク塗布スヘシ
- (四) 混合物鋪設ニ當リテハ先ツ中間層ヲ鋪設シタル後表層ヲ施行スヘシ中間層ヲ鋪設シタル部分ハ必ず同日中ニ表層仕上

チ完成スヘシ但シ降雨其他止ムテ得サル事故ノ爲表層鋪設ヲ完了セサル場合ハ中間層ノ充分乾燥スルヲ俟テ清掃シタル後表層ヲ鋪設スヘシ

(五) 混合物ハ作業ニ支障ナキ個所ニオキタル鐵板上ニ取り卸シタル後シヨベルノ類ヲ以テ之ヲ鋪設個所ニ均等ニ敷均シ塊狀トナレル部分ハレーキヲ以テ碎キ全面一様ノ厚ニ搔均スヘシ

(六) 搔均シ完了セル個所ハ適當ナル溫度ニ至ルヲ俟テ直チニ輾壓ヲ開始スヘシ縁石境界石等ニ接スル部分ハ輾壓前豫メタムパーニテ搗固メ置クヘシ

(七) アスファルト混合物鋪設用工具ハ加熱シテ使用スヘシ但シ過熱ノタメ混合物ヲ損傷セサル様注意スヘシ

(八) 輾壓ニハ8噸以上ノローラーヲ用フヘシ

(九) 輾壓ハ次ノ方法ニ準據スヘシ

(イ) ローラーノ速度 毎時5軒以内トス

(ロ) 混合物カ車輪ニ附着スル虞アル場合ハ車輪ノ表面ヲ成ル可ク少量ノ水又ハ重油ニテ潤スヘシ但シ過量ニ使用スヘカラス

(ハ) 輾壓方向 輾壓ハ先ツ道路中心線ニ平行ニ全面一様ニ之ヲ行ヒ路側ヨリ漸次中央ニ進メ各列輾壓跡ヲ適當ニ重複セシメ且各回輾壓ノ終點ハ前回ノ終點ト約60軒ノ距離ヲ保タシムヘシ次ニ道路中心線ニ斜メニシテ相交スル方向ニ全面一様ニ輾壓ヲ行フモノトス

ローラーノ方向轉換ハ輾壓區域外ニ於テ行フヘシ

(ニ) 輾壓ハ鋪裝面ニ輾壓跡ヲ止メサルマテ繼續スヘシ

ローラーノ進行其他ノ原因ニ依リ混合物ノ移動又ハ表面ノ凹凸ヲ生シタル場合ニハレーキヲ以テ搔均シ必要ニ應ジ更ニ混合物ヲ加ヘテ直ニ修理スヘシ

(一〇) 表層ノ鋪設ハ成ル可ク繼續的ニ之ヲ行ヒローラーハ鋪裝終端ノ約30軒手前ニテ之ヲ止ムヘシ但シ表層混合物ノ冷却スル迄作業ヲ中止スル場合又ハ一日ノ作業ノ終ニ於テハローラーヲシテ鋪裝ノ終端ヲ通過セシメ該終端部ノ冷却セサル中ニ規定ノ厚ヲ有セサル部分ヲ切取ルヘシ而シテ再ヒ鋪設作業ヲ繼續セントスルニハ之ニ熔融セルアスファルトヲ薄ク塗布シタル後施行スヘシ

(一一) ローラーノ到達シ得サル個所ハタムパーヲ以テ充分搗固メタル後スムーサーヲ以テ丁寧ニ仕上げヲ行フヘシ

(一二) 輾壓ヲ終リタル後ハ直チニセメント又ハ石灰岩粉末ヲ薄ク均一ニ撒布シテ掃均シ更ニ輕ク輾壓シ仕上げクヘシ

(一三) 縁石境界石其他ノ露出物ノ表面ハ仕上げ鋪裝面ヨリモ3乃至5軒低カラシムヘシ

第四條 鋪設面ノ保護

鋪設作業完了後表層ノ冷却シ適當ニ硬化シ了ルマテ一般交通並ニ重量物ノ積載ヲ禁止スヘシ

第六章 檢 査

第一條 混合物

鋪設完了部分ヨリ約30軒平方ノ供試體ヲ切取り之ヲ檢査シタル場合次記各項ニ適合スルモノルタルヘシ

(一) 表層ノ比重 2.0以上

(二) 混合物ノ配合ハ抽出試験ニヨリ之ヲ檢査シ設計規格ニ合格スルヲ要ス

第二條 補修

檢査後前記各項ニ合格セサル場合ハ適當ニ之ヲ鋪修シ或ハ其ノ部分ヲ切取り再鋪設ヲ行フヘシ

第二編 アスファルト・コンクレート鋪裝道

第一章 總 則

第一條 本示方書ハ車道鋪裝ニ適用スルモノトス

第二條 本鋪裝ハアスファルトト適當ナル粒度ヲ有スル粗骨材碎骨材及ヒ填充材トノ混合物ヨリ成ルモノニシテ粗骨材ノ大サニヨリ粗粒式ト細粒式(又ハトベカ式)トニ分ツ粗粒式ノ場合ハ其表面ニ封緘層ヲ施行スルモノトス

第三條 本鋪裝ニハセメント・コンクレート瀝青コンクリート又ハ瀝青マカダム等ノ基礎ヲ用フ

第四條 鋪裝厚ハ普通5乃至7軒トス但シ瀝青質基礎上ニ鋪設スル場合ハ相當薄キモノヲ用フル事ヲ得

第五條 鋪裝横斷勾配ハ2.0—2.5%(1/50—1/40)トシ双曲線又ハ拋物線形トス

第二章 材料(表層用)

第一條 アスファルト

シート・アスファルト鋪裝道示方書第二章第一條ニ準スルモ針度ハ次表ノ中適當ノモノヲ選定スヘシ

針度(攝氏25度、100瓦、5秒)

粗 粒 式	細 粒 式
40—50	20—40
50—60	40—50
60—70	50—60

第二條 填充材

シート・アスファルト鋪裝道示方書第二章

第二條ニ準ス

第三條 細骨材

シート・アスファルト鋪裝道示方書第二章

第三條ニ準スルモ其粒度ハ次表ニヨルヘシ(重量100分率)

篩	種 別	
	粗粒式	細粒式
5軒孔篩通過	100	—
10軒篩通過	80—100	98—100
10軒篩通過40軒篩止	15—50	14—50
40軒篩通過80軒篩止	22—60	30—60
80軒篩通過 00軒篩止	7—40	16—40
200軒篩通過	0—6	0—5
計	100	100

但シ一種ニシテ前記ノ粒度ヲ得ラレサル場合ニハ二種以上ノ砂ヲ混合使用スルモノトス

第四條 粗骨材

- (一) 質均等堅韌緻密ナル碎石タルヘシ
- (二) 稜角ニ富ミ扁平又ハ細長ナラス土芥
其他不純物ヲ混セサルモノタルヘシ
- (三) 吸水率 2%以下
- (四) 磨損 100分率 4%以下
- (五) 韌性 8以上
- (六) 粒度ハ次記標準ニ依ルヘシ
(重量 100分率)

篩	種別	粗粒式		細粒式
		粗骨材	計用骨材	
30	耗孔篩通過	95—100	—	—
20	耗孔篩通過	25—75	—	—
15	耗孔篩通過	—	95—100	95—100
5	耗孔篩通過	0—15	0—15	0—30
10	番篩通過	0—5	0—5	0—5
計		100	100	100

第三章 混合物配合

第一條 アスファルト・コンクリートノ配合ハ次表ニヨルヘシ

材料	篩	重量 100分率	
		粗粒式	細粒式
骨材及 填充材	30耗孔篩通過 5耗孔篩止	55—5	—
	15耗孔篩通過 10番篩止	—	20—35
	5耗孔篩通過 200番篩止	25—35	—
	10番篩通過 40番篩止	—	7—25
	40番篩通過 80番篩止	—	10—35
	80番篩通過 200番篩止	—	10—25
アスファルト		5—8	7—10
計		100	100

第四章 混合作業

第一條 混合

- (一) 骨材ハ廻轉乾燥機ニヨリ乾燥シタル後廻轉篩ヲ通過セシメ貯藏函ニ送入シアスファルトハ熔融槽ニテ加熱溶融ス各材料ヲ秤量シタル後骨材填充材及アスファルトノ順序ニ混合機ニ投入シ充分攪拌混合スヘシ
- (二) 加熱温度ハ骨材攝氏 130 度乃至 190 度アスファルト攝氏 130 度乃至 180 度トスヘシ
- (三) 骨材又ハ填充材ノ投入後充分ノ混合シタル後之ニ溶融セルアスファルトヲ注入シ60秒以上混合スヘシ

第二條 運搬

混合物ハ豫メ清掃シタル適當ナル運搬車ニ依リ迅速ニ且舗設作業ノ進行ニ應ジ過不足ナキ様間斷ナク現場ニ搬入スヘシ混合物ハ運搬中天候ノ状況ニ應ジテ帆布類ヲ以テ被覆シ其温度ハ現場到着ノ際攝氏 120 度以下ニ低下セシムヘカラス

第五章 舗設作業

第一條 路盤

- (一) 路盤ハ充分輾壓仕上テ行ヒタル後所定ノ形状及ヒ計畫高ヲ保有セシムヘシ但輾壓不可能ナル箇所アル場合ハ充分鋤掘ヲ行フヘシ
- (二) セメント・コンクリート基礎施行ノ場合路盤ノ表面乾燥ニ過クル時ハ舗設前適度ノ撒水ニ依リ濕氣ヲ保タシムヘシ
- (三) アスファルト・コンクリート基礎施

工ノ場合ハ舗設前路盤ノ表面ヲ成ルヘク乾燥セシメ置クヘシ

第二條 基礎

(一) セメント・コンクリート基礎

- (イ) 基礎厚ハ15種ヲ標準トシ其材料配合等ハセメント・コンクリート舗装道示方書中ニ層式下層用ノモノニ準ス
- (ロ) コンクリートハ混合後成ル可ク速カニ使用シ一部硬化シタルモノハ練リ直スモ使用スヘカラス
- (ハ) コンクリートハ混合後シヨベルヲ以テ路盤上ニ敷均シタムパー、堅固ナルテムプレート、ハンドローラー其他適當ナル器具ヲ以テ計畫高ニ充分搗固ムヘシ但シ基礎面ノ仕上ハ特ニ平滑トナスヲ要セス

- (ニ) 舗設ニ當リ氣温攝氏零度ヲ降ル時使用材料若クハ路盤ノ凍結セル時ハ施工ヲナスヘカラス舗設後コンクリート凍結ノ虞アル場合ハ急硬劑ヲ使用スル事ヲ得
- (ホ) 基礎仕上後ハ夏季ニ於テハ少クトモ一週間冬季ニ於テハ係員ノ必要ト認ムル期間中適當ナル保護及養生ヲ加フヘシ

(二) アスファルト・コンクリート基礎

本基礎ニ關シテハ基礎用アスファルト・コンクリート示方書ヲ参照スヘシ

(三) 其他ノ基礎

特殊ノ場合トシテ瀝青マカダム在來舗裝又ハ砂利道等ヲ基礎トシテ使用スルコトヲ得

第三條 舗設

- (一) 混合物ノ舗設ハ雨天或ハ氣温攝氏 0 度以下ノ場合等不適當ト認メラルル場合

ニハ施行スヘカラス

- (二) 混合物ノ舗設ハ豫メ乾燥セル基礎面ヲ清掃シタル後之ヲ行フヘシ
- (三) アスファルト舗装ト接觸スヘキ縁石境界石其他路面露出物ノ側面ハ豫メ之ヲ清掃シタル後加熱溶融セルアスファルトヲ薄ク塗布スヘシ
- (四) 混合物ハ作業ニ支障ナキ箇所ニオキタル鐵板上ニ取り卸シタル後シヨベルノ類ヲ以テ之ヲ舗設箇所ニ敷均シ塊狀トナル部分ハレーキヲ以テ碎キ全面一様ノ厚ニ搗均スヘシ
- (五) 搗均シ完了セル箇所ハ適當ナル温度ニ至ルヲ俟テ直チニ輾壓ヲ開始スヘシ縁石境界石等ニ接スル部分ハ輾壓前豫メタムパーニテ搗固メ置クヘシ
- (六) アスファルト混合物舗設用工具ハ加熱シテ使用スヘシ但シ過熱ノタメ混合物ヲ損傷セサル様注意スヘシ
- (七) 輾壓ニハ 8 噸以上ノローラーヲ用フヘシ
- (八) 輾壓ハ次ノ方法ニ準據スヘシ
- (イ) ローラーノ速度 毎時五軒以内トス
- (ロ) 混合物カ車輪ニ附着スル虞アル場合ハ車輪ノ表面ヲ成ル可ク少量ノ水又ハ重油ニテ潤スヘシ但シ過量ニ使用スヘカラス
- (ハ) 輾壓方向 輾壓ハ先ツ道路中心線ニ平行ニ全面一様ニ之ヲ行ヒ路側ヨリ漸次中央ニ進メ各別輾壓跡ヲ適當ニ重複セシメ且各回輾壓ノ終點ハ前回ノ終點ト約 60 糎ノ距離ヲ保タシムヘシ次ニ道路中心線ニ斜メニシテ相交スル方向ニ全面一様

＝輾壓ヲ行フモノトス

ローラーノ方向轉換ハ輾壓區域外ニ於テ行フヘシ

(ニ) 輾壓ハ舗装面ニ輾壓跡ヲ止メサルマテ繼續スヘシ

ローラーノ進行其他ノ原因ニ依リ混合物ノ移動又ハ表面ノ凹凸ヲ生シタル場合ニハレーキヲ以テ播均シ必要ニ應ジ更ニ混合物ヲ加ヘテ直ニ修理スヘシ

(九) 舗設ハ成ル可ク繼續的ニ之ヲ行ヒローラーハ舗装終端ノ約30程手前ニテ之ヲ止ムヘシ但シ混合物ノ冷却スル迄作業ヲ中止スル場合又ハ一日ノ作業ノ終ニ於テハローラーヲシテ舗装ノ終端ヲ通過セシメ該終端部ノ冷却セサル中ニ規定ノ厚ヲ有セサル部分ヲ切取ルヘシ而シテ再ヒ舗設作業ヲ繼續セントスルニハ之ニ熔融セルアスファルトヲ薄ク塗布シタル後施行スヘシ

(十) ローラーノ到達シ得サル個所ハタムパーヲ以テ充分搗固メタル後スムーサーヲ以テ丁寧ニ仕上テ行フヘシ

(十一) 輾壓ヲ了リタル後粗粒式ノ場合ニハ其ノ上ニ第四條ニ規定スル方法ニヨリ封緘層ヲ施行シ細粒式ノ場合ニハ直ニセメント又ハ石灰岩粉末ヲ薄ク均一ニ撒布シテ掃均シ更ニ輾壓シテ仕上クヘシ

(十二) 縁石境界石其他ノ露出物ノ表面ハ仕上リ舗装面ヨリモ3乃至5程低カラシムヘシ

第三編 基礎用アスファルト・コンクリート

第一章 總 則

第一條 本基礎ハ碎石又ハ砂利等ヲ粗骨材

第四條 封緘層

(一) 粗粒式アスファルト・コンクリート層ノ輾壓完了後其ノ乾燥状態ニ在ルトキ表面ヲ充分清掃シ攝氏130乃至180度ニ加熱熔融セルアスファルトヲ100平米當リ100乃至150立ノ割合ヲ以テ一様ニ撒布スヘシ但シ場合ニヨリアスファルトニ代フルニアスファルト乳劑ヲ使用スルトナ得

(二) アスファルトノ撒布終ラハ速ニ乾燥セル封緘層用骨材ヲ100平米當リ1.0立米ノ割合ニ舗設面一様ニ撒布シ之ヲ充分輾壓ノ上アスファルト・コンクリート層ト完全ニ密着セシムヘシ但シ場合ニヨリ封緘層用骨材ニ細粒砂利又ハ粗砂ヲ用フルコトナ得

(三) 輾壓作業中骨材ノ不足セル個所ヲ發見シタル時ハ直チニ之ヲ追加シアスファルトノ過剩分ヲ吸收被覆セシムヘシ封緘層仕上後ニ於テ舗装面ニ遊離セル過剩ノ骨材ハ之ヲ輕ク掃取ルヘシ

第五條 舗設面ノ保護

舗設作業完了後表層ノ冷却シ適當ニ硬化シタルマテ一般交通並ニ重量物ノ積載ヲ禁止スヘシ

第六章 檢 査

シート・アスファルト舗装道示力書第六章ニ準ス但シ比重ハ粗粒式ノ場合 2.2 細粒式ノ場合 2.1 以上タルヘシ

トシ之ニ細骨材及ヒアスファルトヲ混合セルモノヲ路盤上ニ直接ニ舗設シアスファル

ト・コンクリート又ハシート・アスファルトノ如キアスファルト質表層ノ基礎トシテ使用スルモノナリ

第二條 基礎厚ハ路盤ノ狀況ニ應ジ普通5乃至10程トス

第二章 材 料

第一條 アスファルト

アスファルト・コンクリート舗装道示方書

第二章第一條ノ粗粒式ノモノニ準ス

第二條 細骨材

細骨材ハアスファルト・コンクリート舗装道示方書第二章第三條ニ準スルモ其粒度ハ

粗粒式ノモノニ據ルヘシ

第三條 粗骨材

(一) 質均等堅靱緻密ナル碎石又ハ砂利タルヘシ

(二) 扁平又ハ細長ナラス土芥其他不純物ヲ混セサルモノタルヘシ

(三) 吸水率 2%以下

(四) 磨損100分率 碎石 5%以下 砂利 8%以下

(五) 韌性 8以上

(六) 粒度ハ基礎厚ニ應ジ次ノ標準ニヨルヘシ

(重量100分率)

基礎厚	篩	60 耗 孔篩通過	50 耗 孔篩通過	40 耗 孔篩通過	30 耗 孔篩通過	25 耗 孔篩通過	20 耗 孔篩通過	5 耗 孔篩通過	計
10 程	粗	95—100	—	—	25—75	—	—	0—10	100
8 程	粗	—	95—100	—	—	25—75	—	0—10	100
6 程	粗	—	—	95—100	—	—	25—75	0—10	100

第三章 混合物配合

第一條 アスファルト・コンクリートノ配合ハ舗設厚ニ應ジ次表ノ標準ニヨルヘシ (重量100分率)

材料	篩	10程	8 程	6 程
骨材	60 耗孔篩通過 5 耗孔篩止	60—75	—	—
	50 耗孔篩通過 5 耗孔篩止	—	60—75	—
	40 耗孔篩通過 5 耗孔篩止	—	—	0—75
	5 耗孔篩通過	20—35	20—35	20—35
アスファルト		5—7	5—7	5—7
計		100	100	100

第四章 作 業

第一條 混合

(一) 骨材ハ廻轉乾燥機ニヨリ乾燥シタル後廻轉篩ヲ通過セシメ貯藏函ニ送入シアスファルトハ熔融槽ニテ加熱熔融ス各材料ヲ秤量シタル後骨材及アスファルトノ順序ニ混合機ニ投入シ充分攪拌混合スヘシ

(二) 加熱溫度ハ骨材攝氏130度乃至190度アスファルト攝氏130度乃至180度トスヘシ

(三) 骨材ノ投入後充分之ヲ混合シタル後之ニ熔融セルアスファルトヲ注入シ60秒以上混合スヘシ

第二條 運搬

混合物ハ豫メ清掃シタル適當ナル運搬車ニ依リ迅速ニ且鋪設作業ノ進行ニ應シ過不足ナキ様間斷ナク現場ニ搬入スヘシ混合物ハ運搬中天候ノ状況ニ應シテ帆布類ヲ以テ被覆シ其温度ハ現場到着ノ際攝氏120度以下ニ低下セシムヘカラス

第三條 鋪設

- (一) 混合物ノ鋪設ハ雨天或ハ氣温攝氏10度以下ノ場合等不適當ト認メラルル場合ニハ施行スヘカラス
- (二) **アスファルト・コンクリート**層ト接觸スヘキ縁石境界石其他路面露出物ノ側面ハ豫メ之ヲ清掃シタル後加熱熔融セル**アスファルト**ヲ薄ク塗布スヘシ
- (三) 混合物ハ作業ニ支障ナキ個所ニオキタル鐵板上ニ取卸シタル後**シヨベル**ノ類ヲ以テ之ヲ鋪設個所ニ均等ニ敷均シ塊狀トナレル部分ハ**レーキ**ヲ以テ碎キ全面一様ノ厚ニ搗均スヘシ
- (四) 搗均シ完了セル個所ハ適當ナル温度ニ至ルヲ俟テ直チニ輾壓ヲ開始スヘシ縁石境界石等ニ接スル部分ハ輾壓前豫メ**タムパー**ニテ搗固メ置ケヘシ
- (五) **アスファルト**混合物鋪設用工具ハ加熱シテ使用スヘシ但シ過熱ノタメ混合物ヲ損傷セサル様注意スヘシ
- (六) 輾壓ニハ8噸以上ノ**ローラー**ヲ用フヘシ
- (七) 輾壓ハ次ノ方法ニ準據スヘシ
- (イ) **ローラー**ノ速度 毎時5軒以内トス
- (ロ) 混合物カ車輪ニ附着スル虞アル場合ハ車輪ノ表面ヲ成ル可ク小量ノ水又ハ重

油ニテ潤スヘシ但シ過量ニ使用スヘカラス

- (ハ) 輾壓方向 輾壓ハ先ツ道路中心線ニ平行ニ全面一様ニ之ヲ行ヒ路側ヨリ漸次中央ニ進メ各列輾壓跡ヲ適當ニ重複セシメ且各回輾壓ノ終點ハ前回ノ終點ト約70糎ノ距離ヲ保タシムヘシ次ニ道路中心線ニ斜メニシテ相交叉スル方向ニ全面一様ニ輾壓ヲ行フモノトス
- ローラー**ノ方向轉換ハ輾壓區域外ニ於テ行フヘシ
- (二) 輾壓ハ鋪裝面ニ輾壓跡ヲ止メサルマテ繼續スヘシ
- ローラー**ノ進行其他ノ原因ニ依リ混合物ノ移動又ハ表面ノ凹凸ヲ生シタル場合ニハ**レーキ**ヲ以テ搗均シ必要ニ應シ更ニ混合物ヲ加ヘテ直ニ修理スヘシ
- (八) 鋪設ハ成ル可ク繼續的ニ之レヲ行ヒ**ローラー**ハ鋪裝終端ノ約30糎手前ニテ之ヲ止ムヘシ但シ混合物ノ冷却スル迄作業ヲ中止スル場合又ハ一日ノ作業ノ終ニ於テハ**ローラー**ヲシテ鋪裝ノ終端ヲ通過セシメ該終端部ノ冷却セサル中ニ規定ノ厚ヲ有セサル部分ヲ切取ルヘシ而シテ再ヒ鋪設作業ヲ繼續セントスルニハ之ニ熔融セル**アスファルト・セメント**ヲ薄ク塗布シタル後施行スヘシ
- (九) **ローラー**ノ到達シ得サル個所ハ**タムパー**ヲ以テ充分搗固ムヘシ

第五章 檢 査

シート・アスファルト鋪裝道示方書第六章ニ準ス但シ比重ハ2.2以上タルヘシ

例 シート・アスファルト鋪裝一位代價表 (100平米當リ)

- (一) 厚8糎(中間層4糎、表層4糎)
- (二) 配合 中間層 粗骨材 72% 表層 細骨材 76.5%
細骨材 23% 填充材 13.0%
アスファルト 5% **アスファルト** 10.5%

名 稱	品質形状	單位	數量	單 價	金 額	摘 要
粗 骨 材	中間層用	立米	4.30			200番篩通過量70%トス 運轉手給料、 ガソリン 費ヲ含ム 混合作業並ニ鋪設作業前耗品其他一式
細 骨 材	表層用	立米	4.70			
細 骨 材	中間層用	立米	1.65			
填 充 材		吨	1,560.00			
アスファルト		吨	1,340.00			
輾 壓 人 夫		人	18.00			
雜 品 其 他						

注意 路盤拵へ及基礎ノ工費ヲ含マス

セメント・コンクリート舗装道

第一章 構 造

第一條 本舗装ハ路盤上ニコンクリート床版テ一層又ハ二層ニ舗設スルモノニシテ一層ノ場合ハ厚15種以上二層ノ場合ハ上層厚4種以上下層厚12種以上トシ適當間隔ニ目地ヲ設置スルモノトス

第二條 車道舗装横斷勾配ハ双曲線形ニシテ2.0—2.5%(1/50—1/40)トス

第二章 材 料

第一條 セメント

セメントハポルトランド・セメントヲ用ヒ昭和五年八月二十日商工省告示第四十一號日本ポルトランド・セメント規格ニ合格セルモノタルヘシ但シ場合ニ依リ高爐セメント、ソリデテット、急硬セメントヲ使用スルコトアルヘシ

第二條 細骨材

(一) 質堅硬ナル砂又ハ碎石屑ニシテ土芥其他不純物ヲ混セサル清淨ナルモノタルヘシ

(二) 粒度ハ次記標準ニ依リ粗細適度ニ混合セルモノタルヘシ

- 5% 5% 篩通過 95—100%
- 50% 50% 篩通過 10—30%
- 100% 100% 篩通過 0—6%
- 注瀉試験ニ依リテ失ハル量 0—3%

第三條 粗骨材

(一) 二層式上層用粗骨材

- (1) 質均等堅靱緻密ナル碎石タルヘシ
- (2) 扁平又ハ細長ナラス割肌清淨ニシテ土芥其他不純物ヲ混セサルモノタルヘシ
- (3) 磨損百分率 4.0%以下
- (4) 靱性 8.0以上
- (5) 粒度ハ次記標準ニヨリ粗細適度ニ混合セルモノタルヘシ(重量)

(二) 一層式及二層式下層用粗骨材

- (1) 質均等堅靱ナル碎石又ハ砂利ニシテ扁平又ハ細長ナラス清淨ニシテ土芥其他不純物ヲ混セサルモノタルヘシ
- (2) 粒度ハ次記標準ニヨリ粗細適度ニ混合セルモノタルヘシ(重量)

(3) 磨損百分率及ヒ靱性ハ二層式上層用粗骨材ニ準ス但シ砂利ヲ使用スル場合ニハ磨損百分率ハ 8.0%以下トス

第四條 水

水ハ酸アルカリ有機物其他コンクリートノ硬化及強度ニ影響ヲ及ホス物質ノ有害量ヲ含有スヘカラス

第五條 アスファルト目地板

(一) アスファルト目地板ハアスファルト材ニ25%以下ノ纖維質ヲ混シ型ニ入レテ製作ルタルモノニシテ強靱性及ヒ弾復性

ニ富ミ暑氣ニ於テ變形セヌ又寒氣ニ於テ脆弱ナラサルモノトス

(二) 目地板ハ其ノ厚目地幅ト等シク舗装厚ヨリ約1種大ニシテ長ハ1米以上タルヘシ

第六條 目地注入用瀝青材

目地注入用瀝青材ハブローン・アスファルト、アスファルト・モルタルヲ使用スヘシ

(一) ブローン・アスファルト規格

ブローン・アスファルトハ其ノ質均等ニシテ水分ヲ含マズ攝氏200度ニ於テ泡起セヌ次記規格ニ適合セルモノタルヘシ

(イ) 針度(攝氏25度、100瓦、5秒) 30—50 (攝氏0度、200瓦、1分) 10以上

(ロ) 軟化點(球環式) 攝氏65—90度

(ハ) 引火點(開蓋式) 攝氏200度以上

(ニ) 蒸發減(攝氏103度、50瓦、5時間) 1.0%

(ホ) 延性(攝氏25度、毎分5種) 3種以上

(ヘ) 二硫化炭素ニ可溶成分 99.0%以上

(二) アスファルト・モルタル規格

アスファルト・モルタルハアスファルトニ細砂又ハ石粉類ヲ加ヘ混合シタルモノニシテ其ノ配合ハ重量比ニ於テ行ヒアスファルト含有量ハ約60%トス

之ニ用フルアスファルトハ次記規格ニ適合セルモノタルヘシ

(イ) 針度(攝氏25度、100瓦、5秒) 80—100

(ロ) 引火點(開蓋式) 攝氏200度以上

(ハ) 蒸發減(攝氏163度、50瓦、5時間) 1.0%以下

(ニ) 蒸發殘留物針度(原針度ニ對スル%) 65%以上

(ホ) 延性(攝氏15度、毎分5種) 70種以上

(ヘ) 二硫化炭素ニ可溶成分 99.0%以上

第三章 配 合

第一條 コンクリートノ配合ハ容積比ニテ示シタル次表ニ依ルヘシ

但シポルトランド・セメントノ容積ハ1,500珎ヲテ1立米トス

材 料	一層式	二層式	
		上層	下層
セメント	1	1	1
細骨材	1.5—2	1.5—2	3
粗骨材	3—4	3—4	6

第二條 使用水量ハウオーカビリテイニヨリテ決定スヘキモ人力搗キ固メノ場合ハスランプ5種以下機械搗キ固メノ場合ハスランプ2.5種以下トナスヘシ

第四章 混合作業

第一條 コンクリートノ各材料及ヒ水量ハ一回毎ニ正確ニ計量スヘシ

第二條 混合ハミキサー内ニ全材料ノ投入後毎秒約1米ノ外周廻轉速度ニ於テ1分間以上廻轉セシムヘシ

第五章 舗 設

第一條 路盤

(一) 路盤ハ充分輾壓仕上ケテ行ヒタル後所定ノ形狀及ヒ計畫高ヲ保有セシムヘシ但シ輾壓不可能ナル箇所アル場合ハ充分蟄搗キヲ行フヘシ

(二) コンクリート舗設前路表乾燥ニ過ク時ハ適度ノ撒水ニ依リ濕氣ヲ保ツシム

へシ

第二條 型枠

(一) 型枠ハ**コンクリート**舗設作業ニ依リ移動又ハ變形等ヲ生セサル充分堅固ナルモノタルヘシ

(二) 型枠ハ正シク計畫線ニ一致スル様設置スヘシ

(三) **コンクリート**ニ接觸スヘキ面ハ舗設前充分清掃シ錆油其他適當ナル塗布材ヲ施スヘシ

第三條 舗設作業

(一) **コンクリート**ハ混合後成ル可ク速カニ使用シ一部硬化シタルモノハ練リ直スモ使用スヘカラス

(二) **コンクリート**ハ混合後シヨベルヲ以テ路盤上ニ敷キ均シ**タンパー**、堅固ナル**デムプレート**、**ハンドローラー**其他適當ナル器具ヲ以テ計畫高ニ充分搗キ固ムヘシ

(三) 二層式ノ場合ニハ下層**コンクリート**混合後一時間以内ニ上層ヲ舗設シ上下兩層ヲ完全ニ密着セシムヘシ兩層間ニハ塵芥其他夾雜物ノ混入セサル様充分注意スヘシ

(四) 路面仕上ニハ**ムテプレート**、**鋸**、其他適當ナル器具ヲ用ヒ舗設表面ヲ充分平滑ニ仕上クヘシ

(五) 横目地ハ道路中心線ニ直角ニ設ケ其間隔ハ約10米トナスヘシ

(六) 縦目地ハ幅員6米以上ノ場合道路中心線ニ平行ニ設クヘシ

(七) 伸縮目地幅ハ約1種乃至2種トス

(八) 伸縮目地ニ**アスファルト**目地板ヲ使

用スル場合ハ舗設ニヨリ移動セサル様豫メ適當ナル方法ニヨリテ正シク支持スヘシ目地板ノ上部ハ舗裝面ヨリ約1種高メ**コンクリート**舗設後其ノ硬化ヲ俟チ目地板ニ沿フ兩側**コンクリート**表面ニ熔融セル瀝青材ヲ塗布シタル後燒鑊ヲ以テ其頂部ヲ蒲鉾型ニ潰スヘシ

(九) 伸縮目地ニ注入用瀝青材ヲ使用スル場合ハ**コンクリート**舗設ノ際豫メ鐵製若クハ木製型枠ヲ設置シ**コンクリート**ノ硬化ヲ俟チテ之ヲ抜き去リ其ノ間隙ヘ瀝青材ヲ充分ニ注入スヘシ

(十) 構造目地板ハ厚1耗程度ノ鐵板ヲ設計構造圖ニ示サレタル形状ニ仕上ケタルモノニシテ其高ハ舗裝厚ヨリ約1種小長ハ3米以上トシ必要箇所ニ穿孔シテ支持用**ピン**ノ挿入ニ便ナラシムヘシ

施工ニ當リテハ適當ナル方法ニヨリ規定ノ位置ヲ保タシメ圖面ニ示ストコロニ從ヒ入念ニ設置スヘシ

(十一) 舗設ニ當リ氣温攝氏零度ヲ降ル時使用材料若クハ路盤ノ凍結セル時ハ施工ヲナスヘカラス舗設後**コンクリート**凍結ノ虞アル場合ハ急硬劑ヲ使用スル事ヲ得

第六章 養生

第一條 舗裝路面仕上後ハ帆布ノ類ヲ以テ間接ニ其ノ表面ヲ覆ヒ足跡ノ印セサル程度ニ至リテ後藁藎、土砂、水等ヲ以テ表面ヲ覆フカ瀝青塗布又ハ其ノ他適當ナル方法ニヨリ舗設後二週間完全ニ濕氣ヲ保タムシヘシ

第二條 型枠ハ舗裝縁カ破損セラレサル程

度ニ至リテ之ヲ除去スヘシ

第三條 舗設後夏季ニ於テハ少ナクトモ二週間冬季ニ於テハ係員ノ必要ト認ムル期間中ハ交通ヲ遮断スヘシ
但シ特殊**セメント**ヲ使用セシ場合ハ養生期

間ヲ適當ニ短縮スルヲ得

附記

本示方書ニ掲ケタル諸種ノ試験ハ内務省土木試験所標準試験方法ニ準シテ之ヲ行フモノトス

膠石鋪裝道

第一章 構造

第一條 膠石トハ細骨材ヲ含マサル**セメント・コンクリート**ヲ謂フ

第二條 本鋪裝ハ通常厚12種以上ノ**セメント・コンクリート**床版上ニ厚4種以上ノ膠石ヲ鋪設スルモノニシテ適當間隔ニ目地ヲ設置スルモノトス

第三條 鋪裝横斷勾配ハ双曲線形ニシテ2.0—2.5%(1/50—1/4)トス

第二章 材料

第一條 **セメント**、細骨材、水、**プラスチック**目地板及目地注入用瀝青材ノ規格ニ就テハ**セメント・コンクリート**鋪裝道示方書

第二章材料ニ準スヘシ

第二條 **セメント・コンクリート**用粗骨材規格ニ就テハ**セメント・コンクリート**鋪裝道示方書第二章第三條(二)ニ準スヘシ

第三條 膠石用粗骨材

- (一) 質均等堅韌緻密ナル碎石タルヘシ
- (二) 扁平又ハ細長ナラス割肌清淨ニシテ土芥其他不純物ヲ混セサルモノタルヘシ
- (三) 磨損百分率 4.以下
- (四) 韌性 8.以上
- (五) 粒度ハ次記標準ニヨリ粗細適度ニ混合セルモノタルヘシ(重量)

40耗孔篩通過	95—100%
25耗孔篩通過	15—60%
20耗孔篩通過	0—5%

但シ場合ニ依リテハ次記粒度ノモノヲ使用スルコトヲ得

40耗孔篩通過	95—100%
25耗孔篩通過	30—60%
10耗孔篩通過	0—5%

第三章 配合

第一條 膠石ノ配合ハ容積比ニテ**セメント**1、碎石 1.7—2 トシ使用水量ハ水**セメント**比(重量)ニテ 0.30—0.35 程度ノ硬練トスヘシ

第二條 **セメント・コンクリート**ノ配合ハ**セメント・コンクリート**鋪裝道示方書第三章ニ準スヘシ

第四章 混合作業

セメント・コンクリート鋪裝道示方書第四章ニ準スヘシ

第五章 鋪設

膠石ハ**セメント・コンクリート**混合後1時間以内ニ鋪設シ下層**コンクリート**ト完全ニ密着セシムヘシ

其ノ他ノ事項ニ就テハ**セメント・コンクリート**鋪裝道示方書第五章ニ準スヘシ

第六章 養生

セメント・コンクリート鋪裝道示方書第六章ニ準スヘシ

附記

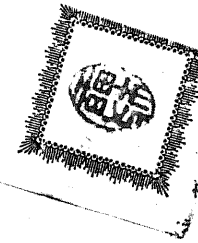
本示方書中ニ掲ケタル諸種ノ試験ハ内務省土木試験所標準試験方法ニ準シテ之ヲ行フモノト

高等土木工學第八卷奥付

道路工學

非賣品
不許複製

昭和六年九月十六日印刷
昭和六年九月十九日發行



著者 牧野雅樂之丞
東京市外井沢町下井草一九五三

發行兼印刷者 堀江關武
東京市小石川區諏訪町五五

印刷所 常磐印刷所
東京市小石川區諏訪町五六

發行所 常磐書房

東京市小石川區諏訪町五五
電話小石川(S5)一三一六番
振替東京七一七五八番